一般選抜Ａ日程　国語総合

出題分析

1　出題数

大問は３題で構成されており、小問数は 22 問、解答数は 44 個となっている。試験時間は 60 分である。

2　出題形式

大問１が 3000 字程度の論説文を題材とした読解問題、大問２が主に語彙力を問う知識問題、大問３が 2700 字ほどの小説文を題材とした読解問題という出題構成である。大問１と大問３の読解問題では、漢字、文法などの国語知識問題のほか、接続語の空欄補充、内容説明、また心情把握や内容合致などが出題されている。解答形式については、漢字問題、抜き出し問題が記述式であるほかは、記号選択式となっており、自分で解答をまとめる形式の問題は出題されていない。

3　出題傾向

大問１、大問３は、問題文の内容理解が問われている。ただし、大問１、大問３とも難解な出題や紛らわしい選択肢はなく、問題文が正しく読み取れていれば十分正解できる出題内容となっている。また、大問２は、国語の基本的な知識を問う問題で、慣用句、四字熟語、ことわざなどの語彙力を問う問題のほか、文学史の問題が出題されている。

4　難易度

大問１、大問３で取り上げられている文章は難度の高いものではなく、出題も問題文の内容が正しく読み取れていれば確実に答えられるものである。問題数が多いので、時間配分に気をつけ、時間内で最後まで解答できるようにしたい。

受験対策

1　漢字対策をしっかり行おう

漢字問題が多く出題されている。漢字の書き取り、読み取り問題に自信をもって答えられれば、読解問題に集中できるため、試験中の気持ちの持ち方も大きく変わってくるはずだ。漢字対策については、手持ちの問題集でよいので一冊完璧に仕上げよう。その後は他の問題集を用いて少しずつ問題演習を繰り返そう。また、問題演習や読書を行うなかで、知らない言葉に出会うたびこまめに確認することも漢字に強くなる第一歩である。漢字対策を行うなかで語彙力を豊富にすることができれば読解力も上がってくる。

2　語彙力を充実させ、文学史についても確認をしておこう

ことわざや慣用句、四字熟語などの国語知識、文学史を扱う大問２への対策も、合格を勝ち取るうえで大切な要素となる。漢字対策と同様、国語知識を扱った問題集を一冊仕上げることにより、基礎力を十分なものにしておこう。そのうえで、文章に接するなかで知らない言葉や独特の言い回しが出てきたら必ず確認し、ノートに書きとどめるようにしたい。実際の文章のなかで覚えていくことにより記憶も強まるはずだ。なお、文学史対策としては、教科書の巻末の文学史年表などを通じて、主な作家とその主要作品を確認しておこう。

3　読解力の向上を図ろう

読解力の向上を図るには、日常生活のなかで文章に接する機会を多くもつことが大切だ。教科書や副読本、新聞、読書等を通じて幅広いジャンルの文章を読むようにしたい。長文が苦手な人は、短いものから読み始め、少しずつ長い文章に取り組むようにするとよい。また、問題演習を通じて、読解力とともに、答えの導き出し方についても身につけることも大切である。定期的に過去問題に取り組み、自分が入試でどれだけ得点できるかを確認するとともに、正答状況を分析しどこに力を入れていけばよいか、学習の方針を得るようにしたい。